

【39】「カミソリ堤」異聞

河川堤防の一つのタイプに俗称「カミソリ堤」というのがあります。専門用語では、河川管理者は「特殊堤」と云いますが、何のことかよくわかりません。

「カミソリ堤」は、コンクリート造の厚さが薄い直立した壁のような堤防で、堤防用地の確保が難しい市街地や海から風波にさらされる河口部でよく見られます。土で築かれた盛土の堤防に較べて、厚さが薄いところに着目して、カミソリ刃のように薄いと強調して「カミソリ堤」と呼ばれるようになったのでしょう。

この話には異論があります。

コンクリート堤防がまだ貴重だった戦後に洪水が頻発した時代がありました。利根川、荒川の大きな本川堤に比して改修が進んでいない小さな支川の堤防は洪水のたびに堤防が壊されて水害になりました。堤防が壊されること（破堤という）を慣習的に堤防が「切れる」と云いますが、たびたび切れるような堤防の事を、カミソリの刃のようによく切れると言葉のかけ合わせで、「カミソリ堤」と云ったとのことでした。

厚さが薄いから「カミソリ堤」という物理的な使い方より、よく切れるから「カミソリ堤」という文学的な方が味がありますが、河川改修が進んでカミソリ堤といわれるようなよく切れる土の堤防が少なくなったので使う場面がありません。コンクリート堤に名を譲りましょう。